

核廃絶と平和憲法守る

鳥越候補 岡田代表・小池書記局長が応援

新宿・練馬両区

激戦が続く東京都知事選（31日投票）で、野党統一候補の鳥越俊太郎氏は27日、日本共産党の小池晃書記局長と民進党の岡田克也代表の応援を受けて、新宿、練馬両区で街頭演説し、唯一の被爆国の首都の知事として、核廃絶と平和憲法を守る先頭に立つ決意を表明しました。

鳥越氏は、その中で、元防衛相の小池百合子候補が雑誌『Voice』（2003年3月号）の対談で「核武装の選択肢は十分ありうる」と発言していることを紹介し「私は、自分の命をかけてでも日本の核武装に反対する」と訴えました。

多くの都民が改憲に反対している首都・東京の知事として「憲法をしっかりと守る。私が先頭になって旗を立てます。一緒に歩きましょう」と述べました。

練馬駅北口で応援演説した小池氏は、増田寛也、小池両候補について、大型開発優先の舛添都政を継承する姿勢だと指摘。「皆さんの声を聞く耳を持ち、福祉や教育に予算を使う、税金を無駄にしないと訴える鳥越さんを知事に押し上げましょう」と呼びかけました。

また、小池候補の「核武装」発言を批判し「憲法を守り、非核都市宣言を公約に掲げる鳥越さんと、核武装を語る候補のどちらを選ぶか、答えは明白ではありませんか」と語りました。

新宿駅新南口でマイクを握った岡田氏は、鳥越氏のジャーナリストとしての経歴に触れ「人の話をしっかり聞く耳をもち、ずばり本質に切り込む。これこそが東京都のトップリーダーに必要な資質ではないか」と強調。「激しい攻撃を乗り越えて都民の良識を示そう」と力を込めました。

足を止めて聞いていた大学4年の男性（21）＝八王子市＝は「鳥越候補は都民の意見を柔軟に取り入れてくれそうで、包容力がある。小池候補は、選挙ではいいことを言って最終的には自分のやりたいことをしてきそう」と話しました。



(写真)鳥越俊太郎知事候補の街頭演説を聞く

人たちは27日、東京都練馬区

これが小池百合子氏の発言

「核武装の選択肢は十分ありうる」

しんぶん赤旗 2016年7月28日(木)

東京都知事選（31日投票）に立候補している元防衛相の小池百合子氏は、「軍事上、外交上の判断において、核武装の選択肢は十分ありうる」との考えを示していました。雑誌『Voice』（PHP研究所、2003年3月号）で、田久保忠衛氏（現・日本会議会長）、西岡力氏との対談記事で述べています。

小池氏は「わずかでも核武装のニュアンスが漂うような発言をただけで、安倍晋三官房副長官も言論封殺に遭ってしまった」と述べ、「このあたりで、現実的議論ができるような国会にしないとイケません」などと主張しています。

福島原発事故直後「稼働中の原発は運転を」

小池氏はまた、東京電力福島第1原発事故直後に、「稼働中の原発は安全性を総点検した上で運転を続けていいと思います」と発言していました。雑誌『アエラ臨時増刊』（朝日新聞出版、2011・5・15号）の『「原発」の行方 20人の提言』の中で述べています。

衆院選も野党共闘を

市民連合が活動方針発表

しんぶん赤旗 2016年7月28日(木)

安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合（市民連合）は26日、「衆院選挙における小選挙区での野党共闘の取り組みを後押しする」などとした、今後の活動方針をホームページ上で発表しました。

安倍政権やメディアは、選挙期間中「主要な争点ではない」としていた改憲を選挙後に、「あたかも憲法改正が既定路線であるかのように有権者をあざむいている」と指摘。世論調査を見ても「主権者たる国民は憲法改正を喫緊の課題とはとらえておらず、改憲議論を国会議員に委任したとは到底言えない」とのべています。

改憲勢力は今後、「立憲野党の分断を図り、改憲発議や国民投票と連動させるかたちで衆議院の解散総選挙を仕掛け、民主的正統性や立憲主義の見せかけを調達しようとする可能

性があります」と強調しています。

市民連合は、「ひきつづき全国各地の市民運動と連携しつつ、来るべき衆議院選挙における小選挙区での野党共闘の取り組みを後押しするとともに、個人の尊厳を擁護する政治をいっそう具体化していくために立憲野党との政策協議を積みかさねていきたいと考えている」と表明し、市民の粘り強い政治参加を呼びかけています。

対話 宣伝 鳥越支持広げ抜く

原発も核もゼロ 暮らし最優先

“居ても立ってもいられない”市民、党支部・後援会奮闘

しんぶん赤旗 2016年7月28日(木)

大激戦の東京都知事選（31日投票）で「なんとしても野党統一の鳥越俊太郎を勝たせたい」「居ても立ってもいられない」と最終盤、市民ボランティアや日本共産党の支部・後援会が、電話での対話・支持拡大に懸命に取り組んでいます。「どれだけの有権者に声をかけられるかがカギ」と電話を握る手にも力が入ります。

港区の東京メトロ（地下鉄）表参道駅近くの鳥越事務所では、ボードで仕切られた30席ほどの電話かけブースが、ボランティアで埋まっています。

沖縄県の石垣島から娘の仕事の関係で上京した女性（69）は、どうしても鳥越さんを応援したいと電話かけに参加。「鳥越さんは、原発ゼロと核兵器廃絶の『核ゼロ』を訴えています。憲法を守る鳥越さんをお願いします」と訴えました。他の候補について「小池（百合子）さんて怖い方なんですよ」と切り出すと「えっ。どこが怖いんですか」と返答が。「戦争する国にするための法律を強引につくったり、原発再稼働も強引に進めようとしたり、安倍首相とそっくりなのが小池さんです」と話すと「知りませんでした。考えてみます」。

三鷹市の事務所でもボランティアが電話かけに取り組みました。「安倍政権への危機感で、ここに来ました」と、かけつけた60代の女性や、「鳥越さんは地に足をつけて護憲を訴えている」と自分の支持者に電話かけする地方議員で、6台の固定電話は午前11時に埋まり、11時半には貸し出しの携帯電話で対話をする人も。



（写真）「都民の声を聞く都知事に」とアピールする労働者たち＝27日、東京都千代田

国立市の女性さんは「参院選の結果をみて、居ても立ってもいられなくて」と話し「目標は2000本。きのうは500本かけました」。迷っているという人が多く「小池さんは自民党を除名されていないし、彼女が知事になっても都政の体質は変わらないのではないのでしょうか」と訴える中で、鳥越さん支持を表明してくれる人がいました。

鳥越候補の勝利と都議補選渋谷区（被選挙数1）で、おりかさ裕治候補を押し上げようと、日本共産党渋谷地区委員会事務所には27日、職場支部の党员4人が集まり電話かけに取り組みました。

「全国から注目されている選挙。一回り二回り支持を広げ、鳥越候補を勝利させよう」とマイ名簿を使い、支持拡大に全力。「鳥越候補は、大型公共事業優先の都政を、くらし優先に切り替えます」「憲法と平和を守ります」と呼びかけています。

「対話の中身や返答に困ったときに役に立ちます」と「しんぶん赤旗」の各支部での対話の記事を切り抜いて使う女性（67）も。

「小池候補は核武装論者です」「増田候補は東電の社外取締役をやっていた人で、原発再稼働推進派です」と他候補の情報を知らせると、「知らなかった。そんな人には絶対に入れない」との反応が返ってきます。

支部の女性（64）が、夫は創価学会員だという友人に電話すると「三重県に住んでいる遠い親戚から『都知事選では鳥越さんをお願い』と言われた」との返事があり、支持が広がりました。